



清水港側外観。敷地は、富士山を仰ぐ美しい港として知られる清水港とJR清水駅に隣接している。周辺には魚市場や倉庫が多く、文化会館の整備によって、新しいまちづくりが誘導されることが期待されている。



大ホールホワイエ。ホールの壁面は、職人の手仕事で仕上げられた繊細な色調のスタッコ壁である。海と山を象徴するようなマリンプールとサーモンピンクの色彩が華やかな雰囲気内外に演出する。



BCS賞  
2015年 第56回  
BCS賞受賞作品紹介

# 静岡市 清水文化会館 マリナート

北側夜景。建物は大ホールと小ホールが並置され、その前面に設けられたホワイエは精緻なアルミカーテンウォールにより、市民広場や港湾など周囲環境と視覚的に連続している。

## 選評

駿河灘に面して霊峰富士を眼前にする清水港に隣接し、新しいまちづくりの核にと計画された美しく端正な、それでいて華やいだ雰囲気を持つ建築である。富士山と海に代表される大きな自然景観と、駅と港を繋ぐ丹念な都市空間のデザインにより、見事に連携した建築内外の場をつくり出している。

広域合併により多核都市となった静岡市は、既存の都市核を個性ある中心地として育成することが課題となっている。旧来の清水中心市街地は郊外立地する大型店や拡充する静岡都心の影響を受け、地域の独自性が十分に表出されていない。しかし、港湾を中心に富士山を抱く風光明媚な海岸線に面する清水東地区では、JR清水駅を核にその環境資源を活かした新たな中心地づくりを進めようとしている。それに大きく寄与しているのがこのマリナートである。

この文化会館マリナートは大ホールと小ホールが並置され、その前面のホワイエは縦のルーバー状の精緻にデザイン・施工されたアルミカーテンウォールにより、さえないものなく周囲の自然を見通すことができ、また、市民広場や港湾とも応答して都市空間との接続が見事に図られている。さらに、ホワイエを海側に回ると巧みに構成された階段状の開放的な吹き抜け空間が海と山との眺望を劇的に演出して、内外を一体化したパブリックな回遊空間、船のデッキを巡るようなシックエンスをつくり上げている。

こうして館内は、海とその海越しに望む富士山など美しい周囲の自然を借景とし、端正な平面計画の中に多様で変化に富んだ空間を織りなし、閉じたホール機能を主にしながら周囲に溶け込むような工夫が見事にデザインされている。このことは、専用ホールと同等の性能を備えたふたつのホールの壁面にも表現されている。海と山とを象徴するかのようなマリンプールとサーモンピンクの職人の手仕事で仕上げられた微妙な変化を持つスタッコ壁を広場に向け、特

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2015年で56回を数えます。

### < 2015年 第56回 BCS賞受賞作品 >

あべのハルカス 大阪木材仲買会館 北九州市立戸畑図書館 サイエンスヒルズこまつ JPTタワー  
静岡市清水文化会館 マリナート 資生堂銀座ビル Junko Fukutake Hall 鈴木大拙館 ダイビル本館・中之島 四季の丘  
はあと保育園 明治大学創立130周年記念和泉図書館 ROKI Global Innovation Center -ROGIC- [特別賞] 上州富岡駅



# 建築主

## 文化を核とした賑わいの拠点施設 — 官民連携の先進事例として

静岡市清水文化会館 マリナートは、合併により誕生した新静岡市の行政区のひとつである清水区を中心市街地に、賑わい創出の拠点施設として整備されました。開館以来、市民の文化活動の場として高い利用率を維持するとともに、多彩な鑑賞事業を開催することで多くの来館者を集めています。本事業はPFIによる施設整備として、設計・建設から維持管理・運営までを一体的に発注した全国でも初めての取組みで注目を集めました。事業遂行は困難を極めましたが、市が求めた要求水準を超える施設が予定どおり供用開始を迎え、現在まで高い利用率・来館者数を確保していることは、民間事業者のノウハウが十分発揮されたものと考えます。

官民連携の先進事例として、まちに賑わいをもたらす素晴らしい文化施設を整備できたことを大変嬉しく、また誇りに思います。



静岡市長  
**田辺信宏**  
Nobuhiro Tanabe



株式会社横総合計画事務所  
代表取締役  
**榎文彦**  
Fumihiko Maki

## 文化会館を核とした文化によるまちづくり

計画は清水港の地勢的、歴史的ポテンシャルを活かしながら、文化会館を核に新しいまちづくりを目指すもので、清水駅から港まで延びる歩行者デッキに文化会館を接続し、港と駅と街の都市空間の連繫を図り、人々が集いさまざまな情景が創出されることを意図しました。透明な空間の中のブルーとピンクに彩られたふたつのホールの並置によって、華やいだ雰囲気を出すと同時に、ホールの

周りにハワイエを巡らせ、富士山や港を眺める船のデッキのような回遊性をつくり出しています。夜のイベントにはライトアップされた壁面と集う人びとのシルエットによりアクティブな情景が作り出されます。この計画はPFI事業で設計当初から、大成建設(株)設計本部をはじめとしたソフトとハード一体のチームで取り組みました。オープン以来の高い稼働率、BCS賞の受賞もその関係者の努力によるものであります。

# 施工者

## 作業所長としての集大成作品 “地図と記憶に残る仕事”

着工前は運用時のことも考えて施設計画に参画し、建設時は地元鈴与建設の方々との企業体として地元協力業者の皆さんとも一体となって工事を進めました。工期半ばに東日本大震災の影響による仕上げ材・労務不足による工程遅延が生じましたが、特に工程の厳しい大ホール舞台では、屋根鉄骨から仕上げまで施工できる自立式移動足場の採用により舞台設備工程を確保し予定通りオープンさせました。

音響性能、出来ばえ、使い勝手については、毎日喧々諤々詳細まで協議し、特にハワイエのスタッコ壁は、設計・施工・職人さんがはりついでの手仕事で、唯一無二の手作り感満載の壁に仕上がりました。作業所長として最後の完成作品。今は静岡市、運営、維持管理の方々のご尽力にて大盛況な、“市民に愛されているマリナート”に関われたことに大変感謝しています。



大成建設株式会社  
名古屋支店  
営業部長  
**松田浩司**  
Hiroshi Matsuda



清水駅東口駅前広場のお祭り風景。



上/小ホール。  
下/大ホール舞台より客席を見る。ホール内部は木質の柔らかい空間となっている。

にライトアップされた夜には、市民広場に華やかな雰囲気を提供している。JR駅からこの市民広場を巡りマリナートに接続する歩行者デッキは、本建築に先行して高い質で整備されていたが、このデザインと整合するように一体感と統一感を演出しながら、広場の場所性を強烈に生み出すなど、建築が都市デザインを統括する見事な

実践と言えよう。今後、清水港を結ぶ施設整備も計画されており、海と市街地、鉄道駅を有機的に繋ぐ結節点として、静岡市清水文化会館 マリナートは、市民の新しい活動拠点として大きな役割を果たす優れた建築であると高く評価できる。  
【選考委員】  
佐藤滋・細田雅春・栗山茂樹

計画概要

建築主：静岡市

設計者：(株)横総合計画事務所  
大成建設(株)

施工者：大成建設(株)  
鈴与建設(株)

所在地：静岡県静岡市清水区島崎町214  
竣工日：2012年4月30日

敷地面積：7,720.80㎡  
建築面積：5,591.47㎡  
延床面積：11,535.72㎡

階数：地下1階 地上4階  
構造：鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造  
及び鉄骨鉄筋コンクリート造